

「東久邇宮文化褒賞」受賞

MERRY PROJECT 代表 水谷孝次

笑顔と平和の大発明



令和7年11月3日（文化の日）に、MERRY PROJECT 代表 水谷孝次が
令和7年「東久邇宮文化褒賞（ひがしくにのみやぶんかほうしょう）」を受賞致しました。

東久邇宮記念賞は、高松宮賞、秩父宮賞と共に三大宮様賞として親しまれており、
発明・文化・社会貢献などの分野で創造的な活動を行なった者に対して贈られる賞で、
『大衆のノーベル賞』とも言われています。

- ①文化的活動（芸能、音楽、教育、医療、福祉、奉仕活動等）に従事し、その振興に携わっていること
- ②文化的活動における社会的評価を受けていること
- ③人格的にも優れ、将来への展望を持ち努力を怠らない者



「笑顔は世界共通のコミュニケーション」

この想いを原点に、1999年からMERRY PROJECTとして
笑顔を通じて平和と共生社会の実現を目指し、国内外で活動してまいりました。

子どもたちへの教育、被災地支援、国際交流 ——そのすべてに“笑顔”がありました。

長年にわたり、笑顔を通じた平和を目指してきた活動が評価され、
このような栄誉を頂く運びとなりました。

この世界中の子どもたちの「笑顔の傘」が、
北京オリンピック開会式オープニングセレモニーを飾り、
平和をメッセージするアイテムとして画期的な「笑顔の大発明」でした。

これらの功績が認められたのも、長年応援し、支えてくださった皆様のおかげです。
心より感謝申し上げます。

これからも、誰もが自分らしく笑顔で生きられる社会を目指し、
笑顔いっぱいの地球にするためにも、笑顔の社会貢献活動を続けてまいります。

引き続き、応援をよろしくお願いいたします。

水谷孝次

東久邇宮文化褒賞の由来とご案内

終戦後の昭和21年、当時、衆議院議員だった私は「発明振興議員連盟」をつくって幹事長になり、発明振興に尽くしていた。その時、たまたま東久邇盛厚殿下にお目にかかった。殿下の発明哲学は「発明には、上下の別はない。ノーベル賞を100とるより国民一人一人の小発明が大切だ。おいしい味噌汁をつくった人には文化勲章を与えよ」という思想だった。

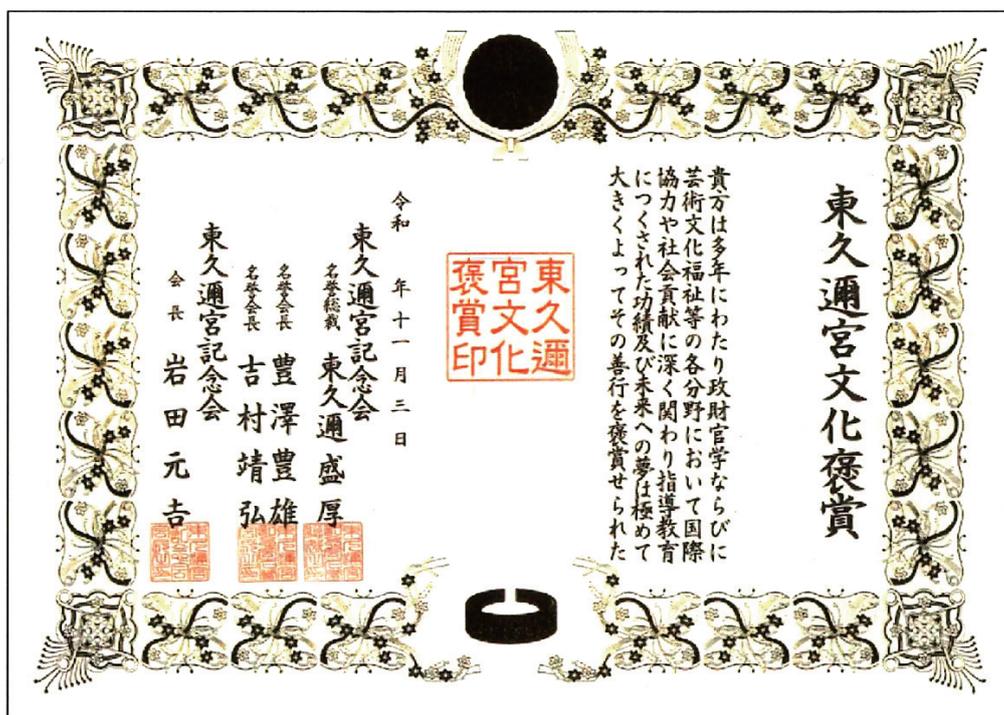
私は、殿下の思想にたいへん感激した。この「文化勲章論」は、議員連盟75人の心にも響いた。

それから、殿下と私の二人三脚の運動が続いた。そして、私でさえ藍綬褒章を賜った。それを機会に、私は科学技術庁の中に「褒章クラブ」をつくった。この「褒章クラブ」は、科学技術庁長官が顧問、私が幹事長となり、35年も続き、科学技術庁公認の団体となった。当時、この褒章クラブ450人が主張したのが「勲章で最高なのが文化勲章である。それなら、褒章で最高なのは文化褒章でなくてはならぬ。それを我々が創設しよう」と始まった。その表彰第一号は、日刊工業新聞社の白井十四雄社長である。

その後、科学技術庁は、文部省と合併してなくなり、褒章クラブもなくなった。

ところが、褒章クラブの中心だった中小企業の社長達が「あの文化褒章は、文化勲章に匹敵する賞である。これからも、中小企業の社長に与えるべきだ」と私のところに沢山寄せてきた。そこで私は、百歳を機にもうひと働きと思い「文化褒賞クラブ」を復活したのである。今、この文化褒賞は、企業経営者をはじめ多くの方々から切望されている。皆さんもぜひ受賞してもらいたい。

平成19年9月 豊澤 豊雄 謹記



豊澤豊雄名譽会長（左）と東久邇盛厚殿下（右）



東久邇佳子様を囲む会 平成19年10月 京都萬重にて

大衆発明を奨励された東久邇盛厚殿下と大衆発明生みの親、豊澤豊雄名譽会長を称える

東久邇宮記念会

特定非営利活動法人発明文化研究会

YouTubeでは、当会のあゆみや各表彰の案内を紹介しています。

ぜひ、チャンネル登録をお願いします。



YouTube
チャンネル